

2024年 2月 11日 << 聖餐式 >>

# 主 日 礼 拝

司 会 ②白川 達男兄

奏 楽

祈 禱 ②小山美枝子姉

賛 美 聖歌481番「ほむべきかな」  
～アイ・ワーシップ・ユー～

パウロの祈り①

聖書朗読 マタイによる福音書26章20～29節

特別賛美 西田美栄子姉

メッセージ 「わたしの思いのままにではなく…」  
石井 潤 牧師

聖 餐 式 賛美「主イエスの十字架の血で」

献金・賛美 聖歌229番「アメイジング・グレイス」

祝 禱

お知らせ [司会者]

賛 美 ～イエス様は私たちの道～

☆礼拝にお越しくださった皆様を心よりご歓迎いたします! ☆  
《今週のお知らせ》

★本日は聖餐の恵み（主イエス様の十字架と復活）を心より感謝致します！

☆今週の祈り会： ①早天祈禱会 明朝6時、 ②祈禱会：木曜午前10時半、  
夜7時半（大和祈禱会映像）。 ③準備祈禱会：土曜夜8時。

★今週木曜午後2時～、上田市大手の石井兄姉宅にて家庭集会が行われます。

☆来週も主日礼拝を大切に致しましょう！（司会：白川兄／祈禱：石井兄）。

★一年に一回聖書を完読できる！ Bible Reading Plan [2/11-18] ☆

Date	日	月	火	水	木	金	土	日
聖書箇所	出エジプト記 31-33	34-35	36-38	39-40	レビ記 1-4	5-7	8-9	10-12
チェック	〇〇〇	〇〇	〇〇〇	〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇	〇〇	〇〇〇

## 「わたしの思いのままにはなく…」

～“十字架からのち溢れて”中国のクリスチャンたちから学ぶ～

「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負って、わたしに従って来なさい。」 ルカによる福音書9章23節 [新改訳]

“「キリスト者の勝利は、困難を乗り越える力や恵みを主から頂くという意味じゃない。主が十字架を用い、私たちが自分を放棄して神に従う者とされること…これこそが、キリスト者の勝利なのです。この『従順』が私の内に満ちる時、私は新しい人に変えられ、人々は天的な影響を受け、主が真の栄光をお受けになられるのだから！」。帰国後、かつて語られたパウロ師(中国の家の教会の指導者のニックネーム)のメッセージの意味が、悟りの遅い私にも開かれて来ました。キリストの十字架に留まりなさいと繰り返し語られながら、そればかりの私です。ですから、老伝道者たちからの警告が心に響いています。「十字架から離れて、いのちの成長はない！ 私たちは一瞬でも十字架から離れるなら、サタンに用いられてしまう存在に過ぎない」 [「いのちの水計画」ニュースレター-2024年1・2月 Nスタッフの言葉から]

イエス様の十字架の場面は、本当に苦しい状況が描かれていますが、私たちはどうしても視覚から入る刺激に脳内が満たされてしまいます。しかし、その主イエス様のお心を見た時にはどんな状況が思い浮かぶでしょうか。

天気を表す言葉に「蒼穹(そうきゅう)」という言葉があるそうですが、それは、「澄み切った良く晴れた青空」のことだそうです。それをしている者が吸い込まれてしまいそうな澄んだ青空のことです。重い、苦しい十字架を背負ったイエス様のお心は、まさに、「蒼穹(そうきゅう)」であったと言えます。

全人類の希望のために、イエス様はその力を振り絞りました。100%を遥かに超えるような力を注ぎ続けたと思います。そんな人間を超えた力を引き出すことができたのは、父なる神様の御心を100%受け止めた結果であったと言えます。その姿が、後に弟子たちに受け継がれ、この日本でも、26聖人や多くの殉教者をしていったクリスチャンたち、また、江戸の暗い時代の中でも、生きつづけた隠れキリシタンたちの信仰にも見出すことができます。

彼らは自分たちにとって、信仰を持ち続けることが、どれほどの益があったのでしょうか。この世では何の益もなかったでしょう。しかし、永遠の世界を信じ切っていたからこそ、彼らは信仰を守り通すことができたのです。それは、喜んで彼らが背負い続けた十字架でした。

私たちも人生のすべてを懸けて、背負い続けることができる十字架、使命があります。父なる神様を信じ切って、自分自身を明け渡す心にこそ、真に解放された人生があります。

「あなたがたは、実に、そうするようにと召されたのである。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、御足の跡を踏み従うようにと、模範を残されたのである。」第一ペテロ2章21節